石櫻新聞

発行所
盛岡市長田町7の60
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会
責任者　吉田　稔
印刷所　山口北州印刷

社史　年史　単行本　機関紙　カタログ　パンフレット　ポスター　新聞

山口北州印刷
盛岡市青山四丁目☎0585

昭和五十五年度 前期石桜会役員

田中君

大矢君

渡辺君

平子君

熊谷君

前期生徒会役員

去る四月二十五日の石桜役員改選の結果、前期役員が次のように決定し、すでに認証式を経て新しい体制で活動を開始した。

新役員は次のとおりである。

◎執行委員会
会長　田中和斗
副会長　大矢裕之
書記　渡辺要
会計　横山泰也
熊谷幹雄
平子剛志
浅沼洋人

○執行委員
照井和久
又川晃
清水亙
星川光輝
石川元喜
佐藤益文
鈴木和彦
佐藤隆二
高橋明広

◎常任委員会
○生活委員会
委員長　照井和久
副委員長　千葉孝之
菅原秀基
○学習委員会
委員長　及川晃
副委員長　高屋道雄
大沢田毅樹
○図書委員会
委員長　清水亙
副委員長　藤沢康文
川守田雅啓
○出版委員会
委員長　星川光輝
副委員長　岩渕光一
佐藤敬史
○放送委員会
委員長　鈴木和彦
副委員長　昆直樹
吉田達
○文化委員会
委員長　佐藤益文
副委員長　高橋智
幅信明
○体育委員会
委員長　石川元喜
副委員長　梨子洋和
八重樫真

生徒会長再任にあたって

田中和斗

私が最近みた映画の一つに、「北壁に舞う」という映画がある。今まで数多くの山を征服してきた名もない一人の日本人が、巨大な壁ともいえる山に一七四時間も一人で、長い孤独に耐えながらついに山に登りつめるというドキュメントである。この映画の中では、出演者は唯一、彼のみである。あとは雪と山とが大部分であった。何故、彼はそれほどまでにして、山に登るのであろうか。

私はこの映画を見ていてふと、ある人が有名な登山家に、「あなたはなぜ、山に登るのですか。」とたずねた時、すかさず登山家は「そこに山があるからさ。」と答えたという有名な話を思い出した。この言葉を私自身は、その登山家にとって山というものは、彼自身の人生であり、どうしても避けては通れない試練であると思う。おそらく、映画の主人公も同じではないだろうか。巨大な壁である岩壁を登って行こうと考える。たとえ、そのことに対して、人から無味なことであると言われても。

人生に対しても、立ち向かっている姿に思えた。

人生は、いろいろな巨大な壁をよじのぼることかもしれない。私は、今度の会長再任にあたって、痛切に感じたことは、私の目の前には二つの巨大な壁が、立ちふさがっていると思われたことである。一つは、学校というものであり、もう一つは生徒という巨大な壁である。おそらく、私は映画の主人公のごとく、私の仕事にとって、避けては通れないものであるから、この二つの壁に立ち向かうであろう。ある時は、一歩も進めず立ち止まったり、もしくは、足を踏みはずしてしまうかもしれない。しかし、だからといって、この壁を登ろうともせず、下界でじっとしているだけで、よいものであろうか。ある作者が、「他人がいなければ人間は、存在できない。」と言っている。まったくその通りだと、私は思う。そして、その二つの壁がなかったら、自分自身の存在もありえないと思う。

この二つの壁は、私が登っていっても映画の主人公のように私は少しでもその壁を登って行こうと考える。たとえ、そのことに対して、人から無味なことであると言われても。

54年度後期奨学金授与される

去る四月九日に昨年度後期成績優秀者十四名に奨学金が授与された。

授与者は左記の通り

三年　組　高橋智明
二年　組　田村望
小笠原和博
高橋明宏
菊池祐一
一年　組
細越建志
小泉修二
高橋亨
吉田敦
永井栄一
畑山誠
能谷幹雄
斉藤博美
根反信之

（奨学金は後期六か月分の授業料に相当する額が授与される。）

▼新任紹介

今年は新しく我が校にいらっしゃった二人の先生方に簡単な質問を試みました。

質問事項
一、担当教科　二、出身校
三、趣味　四、尊敬する人
五、生徒に一言

山本先生
一、事務　二、紫波高校
三、スポーツ、音楽鑑賞
五、学校をさぼらないように

佐藤先生
一、美術　二、岩手大学教育学部　三、スポーツ
四、ヘンリー・ムーア
五、打ちこめる何か一つを見つける

教生来たる

六月三十日から七月十二日にかけて、本校に四人の教育実習生の方が我が校にいらっしゃいました。

教生の皆さんにアンケートを試みました。

質問事項
一、担当教科
二、出身校
三、趣味
四、愛読書
五、尊敬する人
六、学校への感想
七、生徒に一言

吉田文明
一、国語
二、都留文科大学文学部
三、スケート（アイスホッケー）、麻雀
四、今昔物語、滝口入道、高山樗牛、山月記、中島敦、高橋和巳、三島由紀夫、渡辺淳一の作品
五、精いっぱい生きていて尚お且つ心にゆとりのある人
六、建物の立派さに、只々圧倒されるばかり
七、自分の意思をはっきりと主張できる人間であってほしい。

柴内三幸
一、社会、日本史
二、法政大学文学部
三、映画鑑賞
四、夜明け前　夏目漱石一般
五、豊田武氏
六、新築され、生徒も多くなってびっくりした。
七、目的をもって人生を

中村佳雄
一、英語
二、大東文化大学外国語学部
三、写真、8ミリ
四、JapanaseNo.1
五、松本亨
六、実に環境が良くなりましたね。
七、Good luck after bad luck
Good luck to you

長井　彰
一、現代国語
二、二松学舎大学文学部
三、将棋、読書
四、夏目漱石、太宰治
五、特になし
六、新しい校舎のこの岩手高校で実習できて大変うれしい
七、少年老い易く学成り難しを忘れずに

岩手山登山

早朝四時、突然眠りの中から目を醒ましたせいか、天未だ頭がボヤッとしていたが、窓を開け空を見ると快晴の気である。

五時校庭に集合しバスに分乗し、一路馬返しへ出発。

昨年は下山の時に思いがけない負傷者が出て、救護班の生徒、先生方々が大変苦しい思いをした事が頭の隅にこびりついている。

前日から心配された天候は、過去にない程の快晴に恵まれ、気温も上らず、涼風が吹いて、順調な登山日和であった。

五合目、御蔵石に到着。視界もすっかり開け眺望は姫神山、駒ケ岳、早池峰がくっきりと浮びあがってい目から三合目までの登りは本当に苦しい。人一倍汗かきの私にとっては、汗がポタポタと落ち脚の筋が張ってきて、息が上ってしまうが、マイペースを持続して「今が苦しく、辛抱する時ぞ」と自分自身に気合いを入れる。時々下界に広がる美しい眺めが、一時の疲れを忘れさせてくれる。また一歩一歩前進。

しかし反面生徒達は素晴しい健脚で色々と雑談しながら平気で登って行く。

前日から心配された天候は、過去にない程の快晴に恵まれ、気温も上らず、涼風が吹いて、順調な登山日和であった。

五合目、御蔵石に到着。視界もすっかり開け眺望は姫神山、駒ケ岳、早池峰がくっきりと浮びあがっている。

この広大な大地の自然、その中に生きている私達の存在が、何か一点にしかみえないような錯覚を感じさせるような、広大な自然が眼前に広がっている。年々自然が破壊されてはいるけれど、私達の故郷は、未だ自然の美しさが残されている。五合目を過ぎるともう楽な登りで、測候所が近づいて来る。測候所で休憩し昼食をとる。不動平から山頂の道程も意外ときつい登りで上を〝見て登ると疲れがひどいので、黙々として下を見て登る。校旗が建立されている所で全員校歌斉唱。

いつもならガスがかかったり冷めたい風が吹くことが多いのに、まったく今度だけは、素晴しい天気だ。

いよいよ松川温泉を目指し下山開始。お花畑まで、急な下りになるので、菊池先生より、厳しい注意がなされ、約一時三十分でお花畑に到着、途中、加藤先生の胸に大きな石が当ったが、幸いにも怪我もなく、ホッとする。松川温泉の湯煙が見えるけれど、下り坂の約三時間は、膝に負担がかかるので、結構つらい。昨年はここで故障者が出たので、気をつけながら下山が進む。相変ず足場が悪かったが、遂に松川温泉に全員無事到着した。

温泉につかっていると、登山の苦しさが吹きとんでさっぱりとした気持が、今でも忘れられない。

校内体育大会

六月十日、曇天に雨が混った空の下で昭和五十五年度校内体育大会が行われた。今年から新しく綱引きとリレーも加わって、より一層活気のあるものとなった。成績は次の通り。

柔道
一年一位一E
二年一位二E
三年一位三B

バレーボール
一位　二A

バスケットボール
一位　三D

卓球
一位　教員

綱引き
一年一位一C
二年一位二B
三年一位三A

リレー
一年一位一D
二年一位二C
三年一位三D

総合
優勝　三D
準優勝　三A
三位　二B
二C

◉石割桜◉

大平首相が亡くなり、県人の鈴木総理大臣誕生か?!人の噂も七十五日〟とはいやられます。しかし、一方では、総理大臣に誰がなろうが、政治が大きく変わりでもしないかぎり、まるっきり無関心という人の方が多いのが目につきます。これは、我が校の石桜会にも、あてはめることが出来るのではないでしょうか。生徒総会にしてみても、自由参加にしたせいか、生徒が少なかったのは、これからの石桜会を大きく左右していくのではないでしょうか。

「石桜」の紙面で、各文化部の今年の文化祭への目標がわかるように、石桜祭復活二年目の今年は、昨年のビートルズフェアのような、同好会的団体も数多く参加して、昨年以上の盛り上がりを期待したいものです。

七月、八月と夏に入って、皆それぞれこの一年の体勢が、かたまってきた頃だと思います。

暑さでだらけた気持ちをひきしめ、一、二年生は、これからのために、そして三年生は、最後の目標に向かって、自分の夏を見つけ、それを乗り越えられるよう、努力してほしいと思います。

高校総体開かる

◆…第32回岩手県高校総合体育大会が、前期五月二十四日～二十六日、中期五月三十一日～六月二日後期、六月七日～九日に分けて、各地で行われた。我が校は常勝の山岳部が都合で参加をとりやめ、卓球庭球などは健闘はしたが栄誉に輝くことは出来ず、わずかに水泳の二選手が東北大会の出場権を得るにとどまった。…◆

軟式庭球部

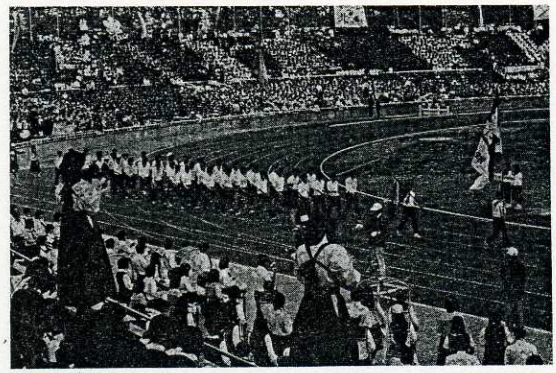
六月十二日、岩手県営運動公園テニスコートに於て行なわれ堂々ベスト8に進出した。

一回戦
岩手2―1久慈
二回戦
岩手2―1宮古
三回戦
岩手2―0一関工
準々決勝
岩手0―2大船渡工

バスケットボール

四月二十六日、岩手大学体育館で行なわれた。

一回戦
岩手50（26―36 24―28）64盛農



前半了終直前につけられた差が、そのまま最後までひびいた。

硬式野球部

五月八日、県営球場に於て行なわれた。

名　剛喜樹豊郎哉孝人正
手　元義　好俊　洋守
藤川田田多川場沼坪
選佐石桜細本小野浅大
左二三中投一遊捕右

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
市立	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
岩手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ラグビー

五月三十一、一日の両日釜石南高校のグランドで行われた。

一回戦
岩手6（0―12 6―20）32黒北
敗者戦
岩手26（18―0 8―18）18岩谷

水泳部

七月五、六日花巻市民プールに於て行なわれた。

200自由形
長根誠一（3年）
2：41・0位
400自由形
長根誠一（3年）
5：45・5五位
100平泳
丸山　豊（1年）
1：25・3七位
100背泳
石川義勝（2年）
1：25・4九位
400個人メドリー
石川義勝（2年）
6：57・5六位
400リレー
石川、丸山、藤村、長根
5：09・9九位
800リレー
石川、藤村、高橋（丸山）、長根
11：47―八位
総合　九位

卓球

5月31日～6月1日にかけて、新日鉄小川体育館で行なわれた。

団体戦
一回戦　岩手4―0山田
二回戦　岩手4―1水沢
三回戦　岩手1―4盛商
個人戦
一回戦　刈間沢
2―0福岡
松村2―0久慈
二回戦　刈間沢
0―2東和
松村2―0東和
三回戦　松村2―0専北
ダブルス
一回戦　岩手2―0宮商
二回戦　岩手1―2東和

バレーボール

五月二日、盛岡北高校で地区予戦が行なわれたが、惜しへも県大会に出場することができなかった。

岩手0（8―15 7―15）2雫石
岩手0（3―15 9―15）2盛一

ハンドボール

七月七・八・九日にわたって、岩手大学グランドを会場として行なわれた。

一回戦
岩手32（16―4 16―7）11久慈
二回戦
岩手15（6―13 9―9）22関工
三回戦
浅沼2―0遠野
浅沼2―0花農
四回戦
浅沼0―2軽米
後藤1―2広水
三浦0―2軽米
二回戦
後藤2―0宮水
三浦0―2水農
個人
一回戦　三浦2―0広水
岩手1―3黒工
岩手2―2水農

剣道

五月三十一、六月一日の両日、盛岡第三高校体育館で行われた。

団体（リーグ戦）
岩手1―3黒工
岩手2―2水農
個人
一回戦　三浦2―0広水
後藤2―0宮水
三浦0―2軽米
二回戦
後藤1―2広水
浅沼2―0遠野
浅沼2―0花農
三回戦
浅沼0―2軽米

第二回定期演奏会に向けて

私たち岩手高等学校吹奏楽部は、七月三十日岩手県民会館大ホールにて第二回定期演奏会を開催致します。

この演奏会にあたって、私たちが主張したい事は大きく二つあります。

一つは、「聴く人に感銘を与えたい。」と言う事、そしてもう一つは、「マーチングのすばらしさを解ってもらいたい。」と言う事です。

特に二つ目のマーチングに関しては、岩手県の高校で行なわれているのは、私たち岩手高校吹奏楽部だけなのです。確かに十分や二十分の演技を行なうにも、数ヵ月の練習が必要ですし、吹きながら動く事自体かなりハードなのですが、他県ではとても盛んでマーチングの大会となると、前売り券は発売してすぐに売り切れ、それも会場となる体育館等は、全席指定なのです。

何故、誰もが認めるマーチングの素晴しさが岩手の人たちには解ってもらえないのでしょう。淋しい事です。

私たちの演奏会は三部構成です。一部は、吹奏楽のオリジナル曲を演奏します。二部は、ステージドリル、マーチングの事です。三部はポップス、映画音楽からスウィングの曲まで幅広く演奏します。

昨年七月二十七日の第一回定期演奏会と、ほぼ同じ形式ではありますが、演奏曲目が幅広くなった点においても成長したのではないかと思います。又、昨年九月の全日本吹奏楽コンクール岩手県大会優勝、十月東北大会銅賞は私たちに大きな自信を与えてくれました。又、数か月前、私たちがいつもの様に吹奏楽の基礎である、ロングトーンを外でやっていますと、ある部員が中年の女性に話しかけられました。その部員はこれに対し、私たちの演奏会の客層の大部分が他校生と一般の人々です。これには複雑な気持ですが。

数日後の演奏会に向けて今、私たちは、これを成功させたい一心で練習にはげんでいます。

皆さん、ぜひ七月三十日の演奏会に来て下さい。そしてぜひ応援して下さい。お願いします。

■おわび■

新聞が大幅に遅れ、記事の内容に食い違う点が生じてしまいました事を御了承下さい。

石・桜・祭へ向けて

昨年の十月二十七、二十八日の両日、我が校伝統の石桜祭が三年ぶりに復活しました。一ヶ月前に急拠取り組みはじめ、掲示板や衝立などを作成し、室内装飾に欠ける面はあったものの、内容的には各部とも三年ぶりとは思われぬほどの出来ばえ、また各バンドによるステージ演奏の方も充実したものでした。

今年も十月四日、五日の二日間、石桜祭が開催されます。

今年の石桜祭は、昨年を土台としてさらに盛大な文化祭となることでしょう。各部とも、この石桜祭に向けての活動が早くもはじまっています。

書道部、絵画部は、今のところ個人ごとの作品製作にあたっており、化学部、物理部、生物部は、グループごとの研究を進めていません。

地学部は、岩石採集を中心に活動を行ない、石桜祭までにはすばらしい標本が出上がると言っています。また、写真部は私の写真コンテストを、吹奏楽部は、七月三十日岩手県民会館で行なわれる定期演奏会と、八月から始まる全日本吹奏楽コンクール予選を兼ねた部活動をしています。映画部も、自作映画の撮影と編集を行なっており、夏休み中にはさらに新作が三本ほど出来上りそうだとのことです。

私たち文化委員会も、彼らの努力がむだにならないように、また、岩手高校を校外の人たちによく理解していただけるように、活発な委員会活動を行ない、伝統ある石桜祭をさらに大きなものとし、後輩たちに伝えていけるようなものにしたいと考えています。

そのためにも、皆の意見をひとつひとつ大事にしていきたいと思います。また昨年と同様、あまり例のないビートルズフェアなどや、ステージでのロックコンサート等、趣味的、マニア的な催し物の発表を活発にして、他にはないような、岩手高校らしさというものを表現してもいいのではないかと思います。

石桜祭を復活させて二年目の今年、何をするにも後には、この二年目が大事とされています。今年の石桜祭を成功させるために頑張りましょう。

中学校修学旅行

六月二十四日午前五時二十分、盛岡駅に集合し、校長先生のお話や添乗員の田鎖さんら紹介が行なわれた後、ホームに入った。見送りには校長先生、諸先生、父兄の方々が見えられている。五時五十五分、私達を乗せて急行「十和田三号」が発車した。いよいよ待ちに待った修学旅行が始まったのである。

青森までの三時間は、おみやげ、旅館、見学場所のことらど、これからの旅程について話がはずんだ。九時過ぎに青森駅に到着し、直ちに連絡船「大雪丸」に乗船した。「大雪丸」では操縦室などを見学したり、デッキに出て津軽海峡を眺望した。函館からは「北斗三号」で札幌へ向い、午後七時過ぎに「光栄ホテル」に着いた。夕食や入浴を済ませた後も友達どうしで話がはずみ、十時に消灯したが、なかなか眠れない。

二日目の早朝、旅館を出て北海道大学構内を散歩した。やはり他にも、観光に来た人が三人ほど記念写真を撮っている。私達もクラーク博士の胸象の前などで写真を撮った。木々の緑やさわやかな朝の空気に接し、その環境の良さはまさに北大ならではという印象が強かった。

朝食後、大通公園のテレビ塔や地下街に向った。札幌オリンピックを機に地下鉄が完成し、それに伴って地下街が並んでいる。まだ時間も早く、開店時間前のところがあって少々残念である。地下街を後にして、次にサッポロビール工場を見学した。ビール生成の過程や、びんづめ、ラベルなど、不良品を取り除く作業など、感心しながら見た。最後に、歴史的記念館でジュースの試飲をし、アンケートに答えた。

昼過ぎには野幌の開拓記念館に向い、開拓時代の歴史等について見学した。この記念館の周囲は森林公園になっており、付近に記念塔が立っている。まさに北海道ならではの大自然がここに展開しているという感じである。

午後はバスで中山峠を通り、洞爺湖へ向い、二日目の宿である「ホテル大東」に入った。

三日目は「はじめに昭和新山、アイヌ部落を訪れ、アイヌの踊りや歌、また、メノコ（女子）の奏でるムックルというめずらしい楽器の音色を鑑賞した。またここには数頭のヒグマがいて、中でも生後三か月ほどの子熊は、パンダのようにかわいいものである。

昼からは、虻田町の火山科学館を見学した。体験室での有珠大噴火の記録は、噴火の恐ろしさや災害に対処する住民の動きについて、克明に表現されたものであった。私達は、以前に新聞やテレビなどの報道で知らされていたとはいえ、更にその認識を深めさせられたのである。この後、バスで函館方面に南下する途中、大沼公園に寄り、自転車などで公園内を散策した。特に今までの石桜新聞でほとんど取り上げられなかった中学の修学旅行の記事などは、その意味で成功だったのではないかと思います。

ところで楽しかった夏休みも終り、いよいよ授業が初まります。これからは新人戦、前期末考査、石桜祭等の行事が目白押しで控えております。残暑きびしい折、夏休み気分を一新してがんばりましょう。（実はこの原稿は七月八日に書いたものです。）

最後に御協力いただきました先生方、各部の方々、委員の方々にお礼を申し上げます。（T）編集委員

○編集後記

石桜新聞第八十七号も遅れに遅れてようやく完成しました。本来夏休み前に読者の皆さんにお届けしなければならなかったのですが、記事集めや編集の出だしが遅れた為にこんな事になってしまいました。

慎んでおわび致します。

さて今回の紙面ですが、毎年この時期の石桜新聞を見ると高校総体をはじめとする体育関係の記事や、石桜会の新役員、高二の岩手山登山といった内容ばかりで、いささかマンネリ気味な感じがしましたので、少しでもそんな所を無くそうと色々な試みを行ってみました。

特に今までの石桜新聞でほとんど取り上げられなかった中のあらゆる世話をしていただいた田鎖さんへ、お礼をしたりして解散になった。

最後にこの旅行に出してくださった父母の方々や、校長先生をはじめ諸先生に感謝すると共に、中学校時代の良き思い出として、いつまでも胸の中に残しておきたいと思う。